

ホームページでもIR情報を公開しています。

当社の情報をスピーディーにご提供するために、ホームページを開設しております。
「最新機種紹介」「社長プレゼンテーション」等もあり、投資家の皆様への情報も充実させておりますので、ぜひご覧ください。



トップページでは、「ニュースリリース」「会社概要」「投資家の皆様へ」「製品紹介」「リクルート」の5つのコンテンツをご案内しています。

•製品紹介



•ニュースリリース



•財務情報



•投資家の皆様へ



•決算説明資料



•会社概要



•FAQ



タイヨーエレクトロニクス株式会社

名古屋市西区見寄町125番地

TEL052-502-9222(代) <http://www.taiyoelec.co.jp/>

第33期中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日

TAIYO ELEC

JASDAQ
証券コード：6429



タイヨーエレクトロニクス株式会社



代表取締役社長

佐藤 英理子

株主および投資家の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ここに当中間期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の業績につきましてご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、製造業を中心とした企業収益の改善や設備投資の増加、雇用や所得に対する不安感の後退から個人消費が堅調に推移し、景気の回復基調が続きました。しかしながら、原油価格の上昇や定率減税の見直しなどの不安材料が懸念され、個人消費は本格的な回復に至らない状況が続きました。

当遊技機業界におきましては、ホール件数の減少傾向と店舗の大型化がすすむなか、平成16年7月の規則改正等から1年が経過し、パチンコ機につきましては順調に新基準機への入替がすすみました。

このような状況のもと、当社は「コーポレートブランドの確立」を重点方針に掲げ、平成17年9月30日付でソフト開発会社イトレックジャパン株式会社と業務提携するなど開発力の強化を図ってまいりました。また、マーケティング戦略の一環として営業支援用モバイルを本格的に稼働させ、市場調査および顧客情報の収集・分析をすすめ開発、営業活動への展開を図るとともに、ホール様に対し継続的に提案するコンサルティング活動による営業力の強化に取り組んでまいりました。

パチンコ機につきましては、4月発売のモンキー・パンチ氏原作アニメのタイアップ機「CR シンデレラボーイ」、6月発売の名作洋画をモチーフにした「CR トップガン」の2シリーズを中心に販売しました。「CR シンデレラボーイ」については、当社の強みである開発機動力を活かし市場ニーズの高い新機能を他社より比較的早期に製品化し市場投入したため、他社との差別化が図られ販売台数を順調に伸ばすことができました。しかしながら、「CR トップガン」の発売時については、「CR シンデレラボーイ」の稼働が依然好調であったため、予定より面替台数が伸び悩んだことに加え、「CR シンデレラボーイ」の発売時点と異なり各メーカーより同様な機能の機種が数多く市場投入されていたことなどにより、当初見込みを下回る販売実績となりました。その結果、当中間期における販売実績は販売台数4万台、売上高89億円（対前年同期比 40.8%増）となりました。

また、利益面につきましては、依然としてパチンコ機いわゆる新台の販売割合が高いものの、前中間期に比べパチンコ機ゲー

中より販売奨励策の一環として自社製品の買取を本格的に開始したことにあわせ、将来の買取見込み額を計上したことなどにより費用が増加した結果、営業損失1億44百万円（対前年同期比 5億54百万円改善）、経常損失1億57百万円（対前年同期比 5億62百万円改善）、中間純損失1億62百万円（対前年同期比 25億37百万円改善）となりました。

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、26億8百万円（前中間会計期間比2億18百万円減）となっております。当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果支出した資金は2億78百万円（前中間会計期間比 3億12百万円悪化）であります。これは主に、たな卸資産の減少額13億円および減価償却費1億94百万円であったものの、仕入債務の減少額17億61百万円、売上債権の増加額4億49百万円および税引前中間純損失1億56百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は60百万円（前中間会計期間比 2億10百万円改善）であります。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億93百万円、定期預金の純減少額1億8百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は2億23百万円（前中間会計期間比 8億15百万円改善）であります。これは主に、短期借入金の純増加額5億円、配当金の支払額2億20百万円によるものであります。



通期の見通し

通期の国内経済の見通しにつきましては、緩やかな景気回復局面にあるものの、個人消費の本格的な回復は期待し難く、当社をとりまく環境は依然として厳しい状況が続くものと思われ

ます。下期におきましては、当初第3四半期に販売を予定しておりました「CR 演歌の歌姫 八代亜紀」は、ビジュアル面でのインパクトとクオリティをさらに高めたことによりやや適合が遅れ、発売が第4四半期期初となる見込みであります。また、後半には平成17年9月30日付で業務提携しましたソフト開発会社イトレックジャパン株式会社との共同開発によるパチンコ第1号機の市場投入を予定しており、今後は、従来にない斬新な企画を盛り込みタイヨーエレクトリックブランドの新しい側面を見出していただける商品を提供していけるものと確信しております。

以上により、下期においては、当初3機種43,000台の販売を予定しておりましたが、販売期間を勘案し、2機種50,000台に修正しております。また、通期見通しにつきましては予定通り売上高193億円、経常利益7億円、当期純利益6億80百万円を見込んでおります。

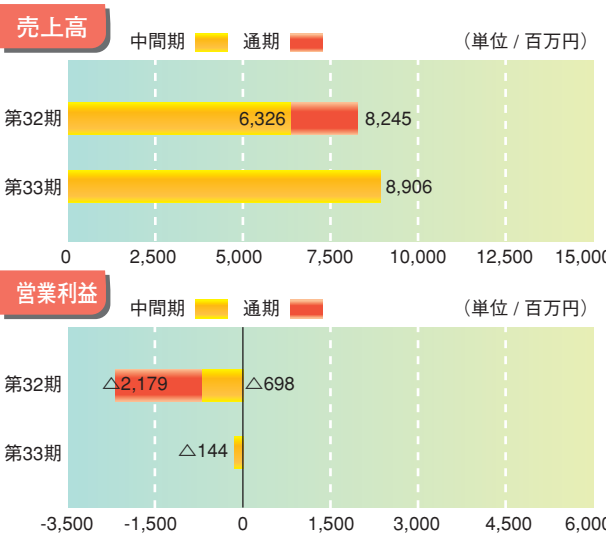
株主および投資家の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年12月

●中間貸借対照表 (単位 / 百万円)			
科 目	第32期中間期 平成16年9月30日現在	第33期中間期 平成17年9月30日現在	第32期 平成17年3月31日現在
資産の部			
流動資産	8,637	7,153	8,377
固定資産	3,574	3,534	3,470
有形固定資産	2,633	2,474	2,474
無形固定資産	52	45	46
投資その他の資産	887	1,014	949
資産合計	12,212	10,687	11,848
負債の部			
流動負債	7,419	7,472	8,369
固定負債	666	797	733
負債合計	8,086	8,270	9,103
資本の部			
資本金	950	950	950
資本剰余金	992	992	992
利益剰余金	2,135	323	706
その他有価証券評価差額金	48	151	95
自己株式	△0	△0	△0
資本合計	4,125	2,417	2,744
負債・資本合計	12,212	10,687	11,848

●中間キャッシュ・フロー計算書 (単位 / 百万円)			
科 目	第32期中間期 自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日	第33期中間期 自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日	第32期 自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	34	△278	△839
投資活動によるキャッシュ・フロー	△271	△60	△428
財務活動によるキャッシュ・フロー	△592	223	335
現金及び現金同等物の減少額	△828	△115	△931
現金及び現金同等物の期首残高	3,655	2,723	3,655
現金及び現金同等物の中間期末 (期末) 残高	2,827	2,608	2,723

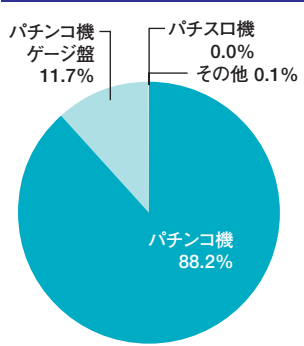
●中間損益計算書 (単位 / 百万円)			
科 目	第32期中間期 自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日	第33期中間期 自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日	第32期 自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日
売上高	6,326	8,906	8,245
売上原価	5,101	6,802	6,948
売上総利益	1,224	2,103	1,297
販売費及び一般管理費	1,923	2,247	3,477
営業利益	△698	△144	△2,179
営業外収益	13	13	124
営業外費用	34	26	85
経常利益	△719	△157	△2,140
特別利益	3	9	1
特別損失	1,616	9	1,616
税引前中間 (当期) 純利益	△2,332	△156	△3,755
法人税、住民税及び事業税	5	5	10
法人税等調整額	361	—	361
中間 (当期) 純利益	△2,699	△162	△4,127
前期繰越利益	641	292	641
中間 (当期) 未処分利益	△2,057	130	△3,486



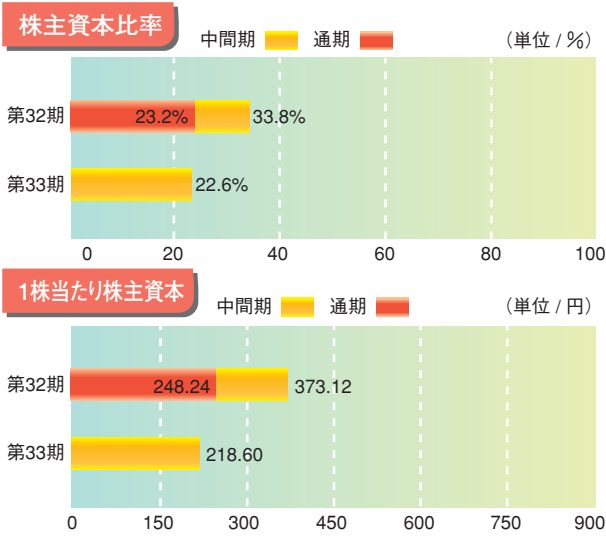
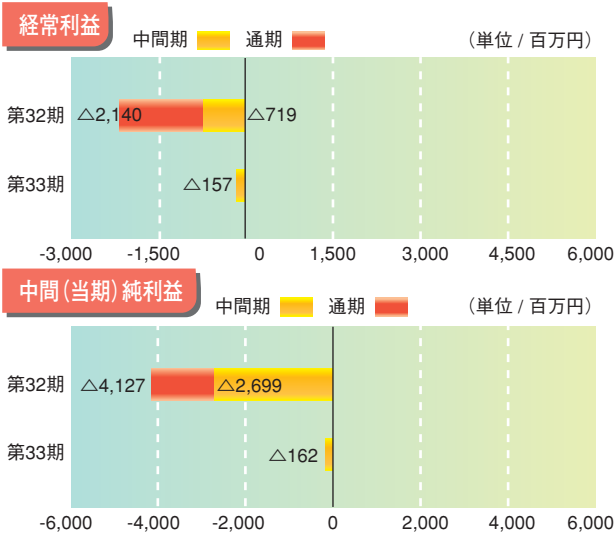
■ 売上構成

	第32期中間期		第33期中間期			
	実績	構成比	実績	構成比	前年差	期初計画
売上高	6,326	100.0%	8,906	100.0%	2,580	10,200
パチンコ機 (新台)	5,829	92.1%	7,858	88.2%	2,029	8,300
パチンコ機ゲージ盤 (面替)	310	4.9%	1,037	11.7%	727	1,900
パチスロ機	176	2.8%	2	0.0%	△174	—
その他	11	0.2%	7	0.1%	△4	—
パチンコ・シリーズ数	2シリーズ		2シリーズ		—	2シリーズ
パチンコ・販売台数	28,044台		40,389台		12,345台	47,000台

●売上構成



第33期中間期の販売台数は、40,389台となり、売上高は前年同期比25億80百万円増加の89億6百万円となりました。またパチンコ機における新台の割合が88.2%を占めております。



より安定した収益力の確保を目指して

当社はパチンコ、アレパチ、パチスロを事業の3本柱として推進し、お客様の声を反映した商品開発や品質、サポートを、期待を超えて提供する「ハイパークオリティ宣言」のもとに営業展開しております。

企業価値の向上と将来にわたる業績の拡大に向けて、より安定した収益力を確保していくために、当社が今後対処すべき経営課題と具体的な取り組みについてご説明申し上げます。

研究開発活動の強化

パチンコ機業界は、平成16年7月の風営法規則等の改正施行により、新基準機へ移行となり、メーカー間の新機種開発競争は益々激化しております。

当社は「コアポレートブランドの確立」を目指し、新機種の企画開発について、ビジュアル性・サウンド性・ゲーム性・オリジナル性を重視、クオリティの高い機種開発を積極的に推進してまいります。

また、自社開発部門とソフト開発協力会社との連携をさらに密にするため、平成17年9月に携帯ゲーム配信会社である、イートレックジャパン株式会社との業務提携を行い、企画開発面の一層の強化を図っております。

また、当社の開発チームの強化を進める一方で新たな開発チームが加わることで、開発期間が短縮できることに加え、今まで以上にゲーム性豊かでクオリティが高く、さらにバリエーションある企画開発を行なうことが可能となり、年間販売機種数の増加と安定的に市場投入できる体制が確立できるものと考えております。また、製品原価コスト削減のため、開発企画段階から部品の共通化などさらに強化してまいります。特許部門につきましても、新しい企画開発をさらに進めることにより有効特許取得を積極的に行なってまいります。

以上のことを強力に推進するため、開発部門については、先行投資含め経営資源を重点的に投資してまいります。

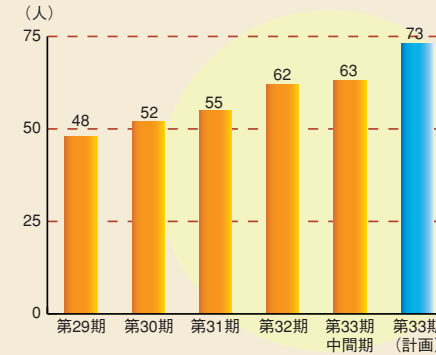
営業体制及び顧客サービスの強化

当社の販売体制は全国8支店、1営業所の拠点による直販方式と、ホール様への販売仲介を行なう代行店による代行販売方式があります。直販体制強化のため、平成17年4月各拠点を4ブロックの営業部体制として執行役員を配置し、傘下の支店を統括し販売体制の明確化と顧客サービスの充実、情報収集の強化を図っております。直販体制強化の一環として、平成17年5月神戸営業所を設置しております。

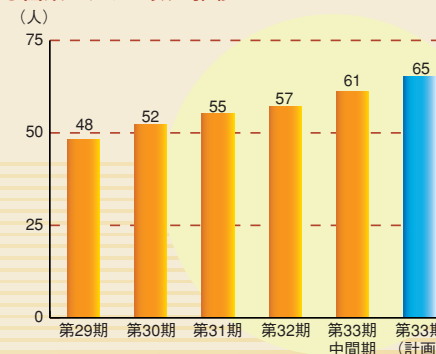
また、平成17年4月より、営業社員にモバイル端末を携帯させ、提案営業の推進による顧客サービスの強化と、ホール様の機械入替情報を始め、各種営業情報の収集・分析管理を行ない開発ならびに営業戦略に活用しておりますが、今後さらにスピード化に対応した情報内容の充実を行い、新機種開発面と営業力の強化に役立ててまいります。

代行店販売につきましても、販売台数の拡大のため直販営業と併せ、各地域密着の代行店の連携を一層強化いたします。

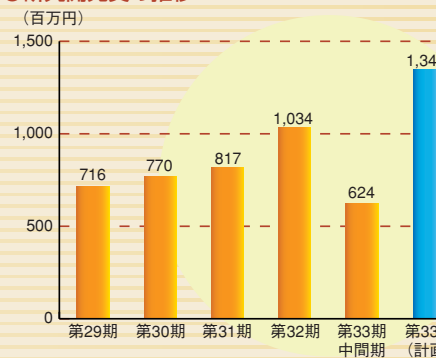
●開発部門スタッフ数の推移



●営業スタッフ数の推移



●研究開発費の推移



品質管理の強化

製品の品質向上を図るため、組織として研究開発本部内に開発品質管理室を、製造部内に製造品質管理室をそれぞれ設置して、開発段階における品質管理と量産体制下における品質管理を行っております。その結果、現在に至るまで特に問題となるような製品の不具合は発生しておりませんが、より一層のブランド価値向上を目指すため、現行の検査およびテスト基準を見直すとともに検査ツールの充実を図り、品質管理を強化してまいります。

リサイクル・リユースの推進

従来より循環型社会における社会貢献の一環として、リサイクル・リユース技術の構築を推進してまいりました。今後、リサイクル・リユースに対応した新機種の開発・供給システムの確立を目指し、リサイクル率の向上を図ってまいります。

人材育成の強化

平成15年10月より成果主義型の目標管理を基本とした新人事制度を導入し、適正な評価に基づき、成果に応じた実力ある若手人材の起用を推進することで、組織の活性化を図っております。

また、経営環境の変化に柔軟に対応できる人材育成のため個性ある社員教育を継続実施しております。

今後も、顧客サービスの向上および全社的なコンプライアンス意識の高揚を図るため、研修内容を充実してまいります。

愛・地球博「P-Forest」にパチンコ出展

21世紀最初の国際博覧会「2005年日本国際博覧会」～「愛・地球博」～長久手会場に、平成17年6月23日（木）より7月10日（日）までの間、愛知県遊技業協同組合主催の「文化の心を育む 遊びの森 P-Forest」に当社の製品【骨伝導パチンコ】、【リサイクルパチンコ】を出展いたしました。開催18日間の来場者数は、計100,117人を記録いたしました。



「P-Forest」の開会式には当社社長がテープカットに参加しました。



出展した【骨伝導パチンコ】



【骨伝導パチンコ】においては、本社ショールームおよび東京支店ショールームにて展示しております。展示期間は、本年中を予定しております。



文化の心を育む遊びの森
～P-Forest～

～「愛・地球博」～
長久手会場

期 間：2005年6月23日（木）
～7月10日（日）18日間
主 催：愛知県遊技業協同組合



新機種のラインナップ

「CRシンデレラボーイ」発売



©2003 モンキー・パンチ/シンデレラボーイ製作委員会

平成17年3月18日（金）の東京支店ショールームでプレス発表会を開催いたしました。

アクションアニメ巨匠「モンキー・パンチ」氏原作のアニメ「シンデレラボーイ」とのタイアップ機で、4月中旬からの発売開始後も長い間人気を博しました。

「CRトップガン」発売



©2005 Paramount Picture. All Rights Reserved.

平成17年6月21日（火）東京支店ショールームにてプレス発表会を開催いたしました。

大ヒット映画「トップガン」とのタイアップで話題となりました。スピード感ある実写と美麗3DCGで創りこんだ臨場感あふれる機種であります。

イトレックジャパン株式会社と業務提携

業務提携の理由

当社は、パチンコ機、パチスロ機、アレパチ機の企画・開発・製造・販売を行っております。新機種の開発は市場のニーズを的確に捉え、クオリティの高い製品をタイムリーに市場投入する必要があります。そのため、自社開発力の強化に加え、斬新な企画力を伴った優秀なソフト開発会社との連携が不可欠と判断し、パチスロソフト開発およびモバイルコンテンツ事業において高い実績を誇り、現在当社のパチンコ機のソフト開発を委託している、イトレックジャパン株式会社と業務提携を行ったものであります。

イトレックジャパン株式会社の概要 (平成17年9月30日現在)

名 称	イトレックジャパン株式会社
主 要 事 業 内 容	携帯電話向けコンテンツの 配信・企画・開発
設 立 年 月 日	平成12年3月
本 店 所 在 地	大阪府大阪市中央区島之内一丁目 15番9号
代 表 者	代表取締役社長 進藤 隆志
資 本 の 額	98百万円
従 業 員 数	33名
主 要 取 引 先	NTTドコモ、KDDI、ボーダフォン、 ソニー・コンピュータエンタテインメント、吉本興業

●会社概要

平成17年9月30日現在

会社名	タイヨーエレック株式会社
本社所在地	名古屋市西区見寄町125番地
設立	昭和48年7月11日
資本金	9億5,040万円
事業内容	パチンコ機、パチスロ機の開発 製造、販売
従業員数	196名
主要取引先銀行	株式会社 第三銀行、株式会社 UFJ銀行 株式会社 名古屋銀行、株式会社 三井住友銀行 株式会社 中京銀行、株式会社 東京三菱銀行 中央三井信託銀行 株式会社
加入団体	日本遊技機工業組合

●ネットワーク

平成17年9月30日現在

本社・本社工場	名古屋市西区見寄町125番地	TEL (052) 502-9222 (代)
札幌支店	札幌市東区北7条東3丁目28番32号 井門東ビル2階	TEL (011) 753-2022 (代)
仙台支店	仙台市太白区泉崎2丁目25番15号 早川ビル1階	TEL (022) 743-2276 (代)
千葉支店	千葉市中央区中央1丁目7番8号 シグマビル4階	TEL (043) 201-3088 (代)
東京支店	東京都台東区東上野2丁目20番1号 晴花ビル1階	TEL (03) 3833-0244 (代)
横浜支店	横浜市西区北幸1丁目5番4号 三協ビル5階	TEL (045) 317-4788 (代)
名古屋支店	名古屋市西区見寄町125番地	TEL (052) 506-2656 (代)
大阪支店	大阪市浪速区元町2丁目5番8号 ラ・グランディオン3階	TEL (06) 6633-7677 (代)
福岡支店	福岡市博多区博多駅東3丁目4番10号 コマビル1階	TEL (092) 437-5155 (代)
神戸営業所	神戸市中央区磯辺通3丁目2番11号 三宮ファーストビル1階	TEL (078) 231-0051 (代)

●役員

平成17年9月30日現在

代表取締役会長	佐藤昭治
代表取締役社長	佐藤英理子
常務取締役	三宅昇吾
取締役	加藤浩二
取締役	山本國昭
常勤監査役	犬飼勲
常勤監査役	神田廣太郎
監査役	古田五百三
監査役	正村俊記
上席執行役員	池田憲治
上席執行役員	筒井雄次
執行役員	納富康
執行役員	佐藤真朗



本社社屋

●株式データ

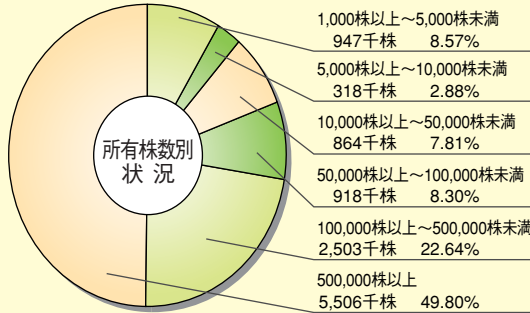
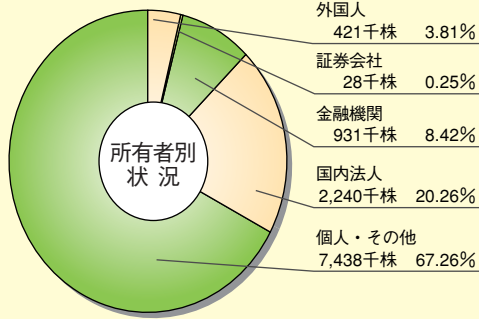
平成17年9月30日現在

会社が発行する株式の総数……………41,800,000株
発行済株式の総数……………11,058,000株
株主数……………723名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
佐藤英理子	2,617	23.67
株式会社 サン・ライン	1,850	16.72
佐藤昭治	1,038	9.39
佐藤麻奈美	464	4.19
三宅亜紀	350	3.16
バンク オブ ニューヨーク・シーエム クライアント アカウンツィーアイエスジー	245	2.21
佐藤照子	238	2.15
株式会社 第三銀行	222	2.00
柏原俊高	204	1.84
安井一俊	155	1.40

(注) 株式数は千株未満、出資比率は小数第2位未満を切り捨てて表示しております。



(注) 株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

●株主メモ

決算期	毎年3月31日	同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月		名古屋支店証券代行部
定時株主総会議決 権行使株主確定日	毎年3月31日		電話 (052) 262-1520 (代表)
配当金受領 株主確定日	毎年3月31日および中間 配当を実施する場合は 毎年9月30日	同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店・全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店 日本経済新聞
名義書換代理人	中央三井信託銀行株式会社	公告掲載新聞 貸借対照表および損益計算書 掲載のホームページアドレス	http://www.taiyoelec.co.jp/ir/kessan/
		1単元の株式数	1,000株

お知らせ

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、
名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-87-2031 で24時間受付しております。